東京外国語大学総合文化研究所　総合文化研究　第 25 号（2021）
Tokyo University of Foreign Studies, *Trans-Cultural Studies*, Vol. 25 (2021)

多和田葉子ワークショップ＆朗読会

海を越える『献灯使』── 翻訳のなかで声となる言葉たち

山口裕之

ある大災害によって鎖国状態となり、日常の言語も著しい歪みを見せている近未来の日本。そのような『献灯使』を題材に選ぶということは、東京外国語大学にとって逆説的な企てなのかもしれない。小説のなかの「献灯使」たちは、確かに閉鎖状況にある日本を秘密裡に脱出して外側の世界から日本にかかわる使命を帯びた者たちであるかのように語られはするのだが、その献灯使たちもさらに巨大な歪みに巻き込まれた存在であるように見える。2021 年 5 月 19 日、日本時間 18:00 から Zoom ウェビナーによって開催されたこのイベントのなかで声を発した学生たちは、コロナ禍の閉塞的でいびつな状況下、何らかの意味で海を越えて日本の外側と繋がりながらこの小説世界を浮かび上がらせていた。

もともとこのワークショップは、東京外国語大学に多和田葉子さんがやってきて、その空間の中で実際にさまざまな翻訳による声が響き合うことを想定して企画されていた。直接的には 2020 年に東京外国語大学出版会から刊行された『多和田葉子／ハイナー・ミュラー　演劇表象の現場』の記念イベントという位置づけでもあったのだが、2020 年の実施は見送られ、2021 年も多和田さんが日本に来るのは難しいと分かった時点で、このようなかたちに構想されていったという経緯がある。とりあげる多和田さんの作品も、そのようななかで選ばれていった。2021 年は東日本大震災と福島での原発災害から 10 年目の年ということもあり、その意味でも『献灯使』をとりあげたい、そして、『献灯使』のさまざまな翻訳の朗読による声を鳴り響かせたいという提案は、多和田さんに全面的に賛成していただいた。

『献灯使』にその時点で何カ国語の翻訳が存在するかについて、多和田葉子研究者の齋藤由美子氏による詳細な書誌によってまずは把握することができるということを、多和田さんからの情報で知ることができた。齋藤由美子さんは、多和田葉子の著作とそのさまざまな言語での翻訳のリストを作成し、それを逐次更新している。その時点で、英語、ドイツ語、韓国語、オランダ語、中国語（台湾）、タイ語、チェコ語、トルコ語、ノルウェイ語、アイスランド語、ルーマニア語の翻訳が刊行されていることが分かった（のちに齋藤さんからはこのイベントのために韓国語と中国語（台湾）の翻訳をお借りすることになった）。実は、少し前の時点で、国際交流基金でも似たようなイベントが行われており（オンライン配信事業「More than Worth Sharing」第 2 回翻訳家座談会 ～多和田葉子著『献灯使』～）、そこではタイ語、英語（アメリカ）、ドイツ語、ノルウェイ語、トルコ語の 5 名の翻訳者を交えて多和田さんとの座談会が催されていた。それに対して、東京外大での企画では、何よりもさまざまな言語での『献灯使』の朗読の声を聞くこと、さまざまな翻訳によってどのような『献

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

灯使』の姿が浮かび上がることになるのかを最も大切なこととして思い描いていた。

すでに翻訳されているのは、11 言語。そのなかからどれを選ぶか。もちろん、全体で 2 時間に何とか収めるという時間の制約もある。これらの言語のうち、オランダ語、ノルウェイ語、アイスランド語、ルーマニア語は、（授業として提供はされているにせよ）その専攻語がないので、あえて無理をしないことにした。それでも 7 言語ある。しかし、さらに欲張った。多和田さんとのやりとりのなかで、リオデジャネイロ州立大学のキタハラ高野聡美先生が『献灯使』のポルトガル語訳出版を進めつつあることを知り、たまたまそこで一緒に翻訳チームの授業にも参加していた学生が私のところに留学生としてやってくることになっていたので、その学生にも加わってもらうのがいいと思い、ポルトガル語訳も入れることにした。さらに、東京外国語大学の博士後期課程で学ぶロシアからの留学生、マリア・プロホロワさんのことが頭にあった。彼女は、すでに多和田葉子のロシア語翻訳も手がけて出版している（『百年の散歩』のなかの「マヤコフスキーリング」）。『献灯使』のロシア語翻訳はないのだが、どこか好きな箇所を選んで自分でロシア語に翻訳して朗読するというアイディアを彼女に提案したところ、一も二もなく喜んで引き受けていただいた。多和田さんからは、イタリア語やフランス語の翻訳が進む可能性についての話も聞いていたのだが、それらの言語は自前で用意するにしても、イベントの時間の制約がそろそろ限界であるため残念ながら諦めることにした。それでも、9 言語となった。

ポルトガル語とロシア語以外の 7 つの言語（英語、ドイツ語、韓国語、中国語、タイ語、チェコ語、トルコ語）については、それぞれの専攻言語の先生方にお願いして、適役と思われる学生を紹介していただいた。そのようにして、朗読のチームができあがった。タイ語、チェコ語については、テクストの入手についても先生方のご協力をいただくことになった。

参加してもらう 9 人の学生たちには、それぞれ自分の好きな箇所、翻訳において面白いことが起こっている箇所を選んでもらい、それを Zoom でのプレゼンテーションに適した対訳のかたちに整えてもらった。学生たちはみんなそれぞれに興味深いところを選んでくれて、それらを作品のなかでの順番に合わせて並べてゆく。

朗読する学生に対して、いわば講師的な役回りとしては多和田さんとともに、2018 年の『献灯使 (The Emissary)』での全米図書賞 (The 69th National Book Awards) 翻訳部門受賞の翻訳者、マーガレット満谷さんにもご参加いただくことになった。多和田さんはベルリンからの参加、7 時間の時差で午前 11 時。12 時間の時差があるブラジルのリオデジャネイロ州立大学の学生は、朝の 6 時の参加。パネラーはその 30 分前にはスタンバイしていたので、ブラジルからの参加はたいへんだっただろう。ワークショップの本番の場では、一人の朗読時間は 3 分前後（対訳提示で日本語は読まない）、その後、自分の朗読箇所を選んだ理由やそこでの翻訳に見られる興味深い現象など、それぞれの朗読者にコメントしてもらった。そして、それに対して多和田さんと満谷さんからさらにコメントをいただくというかたちで進んでゆく。

全体としては、英語以外はおそらくせいぜい一つか二つしか知らない言語による 9 つの朗読とそれに対するコメントを次々と聞いてゆくワークショップである。しかし、その知らない声によって語られる『献灯使』と、そこでのある種の変容に聴衆がどれほど魅了されていたことか。多和田さんとの事前のやりとりでは、「トルコの訳者の方が、『献灯使』

読者から「これは今のトルコ社会を描いた作品ではないか」と言われたり、トルコ政府が自分のことを批判されているのではないかと誤解しないように訳す時に用語選びに苦労したエピソードなど、とても面白かったです。(笑い事ではないのですが)」ということも聞いていたのだけれど、そのようなさまざまなエピソードがそれぞれの翻訳に対する多和田葉子さんとマーガレット満谷さんのコメントのなかから浮かび上がっていった。

日時：2021 年 5 月 19 日（水）18:00 ～ 20:00
場所：Zoom ウェビナーでのオンライン開催
講師：多和田葉子
登壇者：満谷マーガレット
司会：山口裕之
主催：東京外国語大学 総合文化研究所
共催：東京外国語大学 言語文化学部

2021多和田葉子ワークショップ&朗読会

海を越える『献灯使』

日時：2021年5月19日（水）
18:00-20:00 Zoomウェビナーでのオンライン開催（一般公開）

東日本大震災と原子力発電所の危機的な事故から今年で10年となります。多和田葉子さんはベルリンでの反原発デモでもスピーチによって原発廃止を訴えていますが、それとともにさまざまな作品のなかに、そのメッセージが織り込まれています。とりわけ2014年に発表された『献灯使』は、ある大震災後の日本の近未来の姿を不気味に描き出しています。この「ワークショップ＆朗読会」では、東京外国語大学の学生たちを中心として、英語、ドイツ語、チェコ語、ポルトガル語（ブラジル）、ロシア語、韓国語、中国語（台湾）、タイ語、トルコ語の翻訳（対訳付き）によって、『献灯使』のメッセージをまさに海を越えて浮かび上がらせてゆきます。この言葉遊びに満ちた作品は、翻訳のなかでどのような姿をあらたにとることになるでしょうか。

・使用言語：日本語（その他、9ヶ国語・対訳付き）
・参加費：無料

事前申し込みが必要です。
（定員500名。本学学生優先。先着受付順。定員に達した場合参加をお断りさせていただくことがございます。）

参加ご希望の方は、5月10日（月）までに、以下の二次元バーコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。
本学ホームページからも登録できます。
URL: http://www.tufs.ac.jp/event/2021/210416_1.html

問い合わせ先：総合文化研究所（tufs422ics@tufs.ac.jp）

司会：山口裕之（東京外国語大学、ドイツ文学・文化、表象文化論）

主催：東京外国語大学 総合文化研究所
共催：東京外国語大学 言語文化学部

多和田葉子

小説家・詩人。日本語とドイツ語で執筆活動を行う。ベルリン在住。日本では芥川賞、泉鏡花文学賞、伊藤整文学賞、谷崎潤一郎賞、野間文芸賞、読売文学賞、朝日賞、紫綬褒章他多数。ドイツでは、シャミッソー文学賞、ゲーテ・メダル、クライスト賞受賞。また、2018年『献灯使』で全米図書賞翻訳部門（翻訳：マーガレット満谷）受賞。『犬婿入り』『容疑者の夜行列車』『雪の練習生』『地球にちりばめられて』『星に仄めかされて』他作品多数。

翻訳のなかで声となる言葉たち